

しあわせ

vol.12
2016年1月



トピックス 京都桂病院と私、そして京都社会事業財団
 …… 社会福祉法人 京都社会事業財団 理事・評議員 (関西電力病院 学術顧問) 今村 正之

特集 社会福祉法人の現状と今後について
 …… ① 社会福祉法人 京都社会事業財団 常務理事 (京都桂病院 院長) 野口 雅滋
 …… ② 社会福祉法人 京都社会事業財団 理事 (西陣病院 院長) 伊谷 賢次
 …… ③ 社会福祉法人 京都社会事業財団 理事 (京都厚生園 園長) 源野 勝敏
 …… ④ 社会福祉法人 京都社会事業財団 理事 (二条保育園 園長) 澤村 忠則

キラリさん登場! 法人施設で働く職員さんをご紹介
 …… 松陽児童館 児童厚生員 中島 ひとみさん
 …… 京都市桂川療護園 生活相談員 積田 晋平さん

「金閣寺(鹿苑寺)」
 舍利殿「金閣」が特に有名なため一般的に「金閣寺」と呼ばれていますが、正式名称を「鹿苑寺」といいます。
 室町幕府三代将軍の足利義満が、金閣を中心とした庭園を造りました。建築は極楽浄土をこの世にあらわしたと言われ、室町時代前期の北山文化を代表する建築です。
 義満の死後、遺言によりお寺となり、夢窓国師を開山とし、義満の法号鹿苑院殿から二字をとって鹿苑寺と名づけられました。
 「古都京都の文化財」として世界遺産に登録されています。

各施設の所在地

京都桂病院
 京都桂看護専門学校
 にしがも舟山庵
 にしがも透析クリニック
 成逸センター
 京都厚生園
 にしがも舟山庵
 にしがも透析クリニック
 西陣病院
 北野保育園
 京都厚生園松尾の家
 京都厚生園山田の家
 つばさ園
 ゆずの木ホーム
 松陽児童館
 ライフ・イン京都
 北野保育園
 成逸センター
 西陣病院
 二条保育園
 二条保育園
 京都厚生園松尾の家
 京都桂看護専門学校
 京都厚生園
 京都桂病院
 つばさ園
 ライフ・イン京都
 松陽児童館
 玉頭の家
 京都桂川園
 久世障害サービスセンター
 ショートステイ
 昭和保护園
 京都桂川園
 玉頭の家
 京都桂川園久世障害サービスセンターショートステイ

法人職員 2,200名 法人誕生より 102年

社会福祉法人 京都社会事業財団
 Kyoto Social Welfare Foundation

社会福祉法人 京都社会事業財団
 Kyoto Social Welfare Foundation

法人本部 〒615-8256 京都市西京区山田平尾町17番地(京都桂病院内) TEL075-391-5811代(内線8606) / FAX075-393-0140
 URL <http://kyoto-swf.com> E-mail honbu@kyoto-swf.com

季刊広報誌 しあわせ 発行/社会福祉法人 京都社会事業財団 編集/しあわせ編集委員会 発行日/2016年2月25日 印刷/有限会社 アクト

京都桂病院と私、 そして京都社会事業財団



社会福祉法人 京都社会事業財団
理事・評議員 今村 正之
(関西電力病院 学術顧問)

私は京都桂病院に昭和50年3月から翌年の7月まで外科医として勤務していました。世界を見たさに33歳で妻と長女を連れて米国の大学で研究生生活をした後、妻が第2子を妊娠したのを機に帰国すると決めて就職先を探していた時に大学時代に病棟医長をされていた若林陽夫先生が京都桂病院で外科部長をしておられたので電話をしてみました。「大澤忠嗣先生が了承してくれましたので受け入れる。」とお返事をいただきました。両先生には感謝しています。本社会事業財団の長い歴史の僅かな期間を過ごしたのですが、修業中の私に京都桂病院は新しい目標を目指して発展最中の活気ある病院と映りました。

長年病院を主導してきた呼吸器センターの活動はドイツの病院と交流があり、研究発表は活発で、呼吸器外科の教科書も全員が執筆して出版していたと思います。ユニークな医師が多くいましたが、中でも池田貞雄先生と私の大学同級生の松原義人君は研究者として

素晴らしい方々で、診療後に京都大学の研究室に呼ばれて肺がんの研究を長年続けておられました。私は、無理を云って腫瘍の早期診断のためにグループに入れていただきました。

1年半後に京大の本庄一夫外科教授が私を助手に採用してくれて、病院を離れることになったのですが、池田先生らとの共同研究の途上で癌細胞培養と出会い、助手時代にガストリノーマ細胞のホルモン分泌がセクレチンの直接刺激で起こることを見つけました。これが神経内分泌腫瘍（NET）研究の契機となり、NETの病態解明と新しい治療切除術の開発へと進展しました。その後、母校の外科教授となり腫瘍と食道癌の外科に集中しましたが、教授退官後にNETの研究を再開して、京都桂病院を離れて40年後の今330施設の会員を有する日本神経内分泌腫瘍研究会を立ち上げる事が出来て、理事長を務めています。学究の道を歩むことができたのは、京都桂病院での優れた先生方との出会いのお陰

と感謝しています。私が京都桂病院にいた頃は、医師とコメディカルが仲良しで、病院の将来についても熱心に話していたと思います。技師の方々も熱心で、医師を良く助けてくれました。医師同士も科を超えて仲が良く、働くのが楽しい環境でした。これは院長以下上層部の先生方が、若い医師が楽しく働ける環境を作ってくれていたお陰だと思います。

本社会事業財団の歴史をホームページで見ますと、本財団はまさに社会的弱者に手を差し伸べる医療施設として立ち上がり、託児所、保育所、西陣病院と事業を展開して、京都桂病院、児童養護施設、最近では老人人口に伴う養護老人ホーム、認知症デイセンターなど社会の要望に沿って事業を次々と展開して来た様子が分かります。多くの先輩方が努力して築いてきた本財団を今の構成員が活発な活動をするにより立派に引き継いで、将来に繋げて欲しいと願っています。

特集

急性期病院の 現状と今後について



社会福祉法人 京都社会事業財団
常務理事 野口 雅 滋
(京都桂病院 院長)

皆さんご存じのように、日本の国の借金が1,000兆円を超えています。毎年の歳出が歳入（税金）を上回り、赤字国債を発行しなければ予算が組めないため借金が膨れ上がってきました。年金・医療・介護などの社会保障給付費は年間100兆円を超え、この中の税負担分が歳出の一番大きな部分を占めています。社会保障制度を維持するための費用負担が大きな借金の原因になったとも言えますが、この充実した社会保障制度のおかげで、世界に冠たる長寿社会が実現できたのも事実です。この社会保障制度を少子高齢化社会でも持続可能とするにはどうすれば良いのかについて、厚生労働省を中心に検討されてきました。

医療必要度の高い75歳以上の後期高齢者が激増する2025年を目前に控え、医療費がさらに増加することが予測されま

す。それを削減することは無理でも、せめて増加の程度を低く抑えるためには、医療を効率よく提供することが必要です。医療を本当に必要なとしている人には適切に提供されるようにするために、医療の需要と供給をマッチさせて医療の効率化を図ることが計画されました。

まず供給量を知るために、日本国内の全病院に、高度急性期・急性期・回復期・慢性期の四つの機能の内、どの機能を持たす病床を何床持っているのかについて報告をさせました（病床機能報告制度）。次いで、医療需要を調べるために、現在日本中でどんな病気にかかっている人が何人いるかの調査も行われました。この情報と2025年の人口予測を用いて、2025年の医療需要が作成されました。

少子高齢化の状況は地域によって大きな差があります。日

本全体で需要と供給をマッチさせても、それぞれの地域では全く事情が異なることが考えられます。そこで、各都道府県にある二次医療圏という範囲の中で、需要と供給をマッチさせることができるよう、都道府県ごとに2025年に向けての計画を策定しています（地域医療構想）。

京都桂病院では、高度急性期と急性期を担うという方針を決定し、病床機能報告を行いました。当然、回復期と慢性期の機能は無いので、その機能を持つ病院と連携する事で完結した医療を提供していかねければなりません（病院完結型医療から地域完結型医療へ）。次年度、西陣病院に地域包括ケア病棟（回復期の機能を担う）ができる予定です。京都桂病院にない機能を持つ病棟が同一法人内に存在することになるので、西陣病院とは今まで以上に緊密な連携を図って行きたいと考えています。

法人内介護施設の 現状と今後について

社会福祉法人 京都社会事業財団
理事 源野勝敏
(京都厚生園 園長)



法人内の介護施設（京都厚生園、京都桂川園、にしがも舟山庵、ライフ・イン京都）について、最近の施設長会の記録から以下の4項目を報告いたします。

1 介護報酬改定の影響

今年度の改定は2・27%のマイナス改定でした。4、5月の介護給付実態等調査結果によりまずと、一人当たり費用額は、要支援者の減額が大きく、事業別では特養が0・5%減、通所介護が4・5%減となりました。今回は、基本報酬を大幅に下げて各種加算が設定されたことと介護職員処遇改善加算の拡大が特徴です。当法人の各施設は、専門的サービスの提供や有資格者の適正配置などによって加算取得を行うと共に、介護職員の処遇改善に関わる給与見直しなどを実施し、厳しい状況の中で経営安定に向けた努力をしております。

2 地域との連携や信頼の確保

各施設は所在する地域や環境が

異なりますが、地域との連携や信頼の確保を運営方針等に掲げ、日常的に様々な取り組みを実施しています。

● **ライフ・イン京都**は、地元防災会の中核を担うことやケアマネ事業などを通じて地域住民の個別支援にも活躍しています。

● **にしがも舟山庵**は単独のユニット型特養ですが、舟山庵まつりや地域活動への職員派遣など連携に工夫しています。

● **京都厚生園**と**京都桂川園**は地域包括支援センターや認知症カフェ、地域交流サロンなどの活動に取り組んでおり、特に京都桂川園は小中学校と隣接しておりますので、学校・子どもたちとの交流が盛んに行われています。

3 4施設連携

にしがも舟山庵の開設準備の頃（平成21年）から施設長が定例で会議を設けていました。現在は、ライフ・イン京都が加わ

り、4施設で情報交換や共通課題の検討などに取り組んでいます。常務理事（野口京都桂病院院長）の出席により、法人との連携の場にもなっています。今年度からは事務長会もスタートし、人材確保・育成、研修など様々な課題を共有し、連携の幅を広げようとしています。

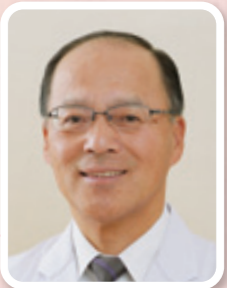
4 今後に向けて

前述の施設長会において、「今後必要とされるサービスを考える」というテーマで協議を始めました。地域包括支援センターが掌握する地域の福祉や介護、生活問題の情報を理解することや国・京都市の高齢者施策の動向や課題を研究しています。社会福祉法人の介護施設として、経済状況・要介護状態等に応じた支援やサービス提供や住み替え問題への対応なども議論しています。

今後も、知恵を出し合って、高齢者・障がい者の安心のために方策を検討してまいります。

中規模病院の 現状と今後について

社会福祉法人 京都社会事業財団
理事 伊谷賢次
(西陣病院 院長)



平成26年度診療報酬改定において、2025年に迎える超高齢社会で地域医療提供体制をどのように再編するか方向性が明確にされました。今後増加する医療費の抑制やポストアキュート病床の需要増加や看護師不足の解消のため、まず、7対1病床数を削減するための方策として、平均在院日数の算定基準変更（短期滞在手術の除外、特定除外制度の廃止）と重症度・看護必要度の厳格化、在宅復帰率の新設が実施され、7対1の一般急性期病床から回復期・療養病床への誘導が図られました。ターゲットにされた急性期中規模病院にとっては厳しいハードルとなりましたが、西陣病院などの中規模病院では様々な努力により7対1看護基準はクリアしています。しかし、2016年度の診療報酬改定ではさらな

る平均在院日数の短縮、看護必要度の厳格化が予想され、中規模病院では7対1の急性期病床の維持は困難が予想され、7対1の急性期病床のダウンサイジングとそれ以外の機能の病床への移行を考えないといけなくなるそうです。さらに、地域医療ビジョンの策定や地域包括ケアシステム構築などの方向性が打ち出され、急性期中規模病院にとって今後果たすべき役割を考える大きな転換期となっています。西陣病院は2次医療圏で小回りの利くチーム医療を地域にアピールしながら急性期医療を行っております。今後も、一般急性期医療と透析医療を車の両輪と考え、相互に緊密な連携をとりながら、地域に密着した良質な医療を提供できるように診療体制を構築していきます。2016年度の診療報酬改定で

厳しいハードルが予想され、今年3月より7対1の急性期5病床のうち、1病床を地域包括ケア病床に移行します。当院は多疾患を合併した高齢者の急性期医療を行っており、7対1の急性期病床を維持しながら、地域包括ケア病床でサブアキュート・ポストアキュート・レスパイトなど地域にあった医療を提供してまいります。また、ハード面では今年4月より内視鏡室の整備を開始し、新しい消化器内視鏡センターを開設します。今後も大学や基幹病院で研修修了した医師たちが当院で働きたいと思える病院づくりを継続します。今後も厳しい医療情勢が続きますが、医師だけでなく職員全体が働きがいのある病院づくりを目指すことが、患者さんに安全で良質な医療を提供できると確信しています。

キラリさん 登場!

今日のおやつな〜に〜?

松陽児童館
児童厚生員 中島ひとみさん

松陽児童館の学童クラブでは、毎日おやつの時間があり、その日のおやつをみんな楽しみにしています。「私、朝もリンゴ食べたし…。」「いいにおいすると思ったら、やったー!肉まんや!」「このプリン、ブッチンしていいの?」などなど。おやつの内容は、果物やプリン・ヨーグルト、するめや小魚など色々なおやつを組み合わせ出します。節分や七夕など季節にちなんだおやつも出します。

普段のおやつ以外にも子どもたちが楽しみにしているのが「だがしやさん」です。年に数回、色々なおやつが並ぶお店が登場し、子どもたちは、だがしやさんだけで使える10円玉10枚を持って買い物します。ゆっくり慎重に計算しながら買い物する子もいれば、同じ種類のおやつを全部買う子、買ったおやつを食べずに持って帰って家族にあげる子、などそれぞれの子どもの性格があって面白いです。そして、店番をする職員やボランティアさんも、買ってもらうと一生懸命売るのがまた面白いです。これからも子どもたちと楽しみながら、過ごしていきたいと思ひます。



私のいきがい

京都市桂川療護園
生活相談員 積田晋平さん

皆さんこんにちは、京都市桂川療護園で生活相談員をしております積田晋平です。今回このコーナーに登場できることを嬉しく思います。では僕の日常を少し紹介いたします。

療護園での生活相談員業務ですが、入所されている方の介護業務や車椅子や補装具に関する調整等に加え、ショートステイの担当もしています。在宅で暮らしておられる利用者さんやご家族の希望を事前にお聞きして体調等の確認および利用の日程調整等を行っています。

家庭では、一歳二ヶ月になる娘の父親として子育てに奮闘中。また趣味を超えてプロダクションに所属するバンドでミュージシャン活動をし、CDも数枚リリース。精力的に行っています。

このように毎日が、仕事に!子育てに!バンド活動!っと自分のライフスタイルの中でそれぞれがバランスよく働き、充実した日々を過ごしています。

その中でも、一番の活力源となっているのは何と言っても娘の成長です。食事の用意、オムツ替え、お風呂、寝かしつけ、その他一緒に遊ぶ時間に至るまで全てがとても楽しく(時にはイライラすることもあります)、彼女の為に一生懸命介護の仕事頑張る、いつかミュージシャンとしての顔も見せたいと思っています。家族の為に、介護の仕事と音楽活動の両方を出来るだけ長く続けていけるようこれからも頑張りたいと思ひます。



保育事業の 現状と今後について

社会福祉法人 京都社会事業財団
理事 澤村忠則

(二条保育園 園長)



昨年4月から始まった保育新制度ですが、先ず、事務量の半端でない負担の増大でした。昨年度後半から4月〜6月まで、ほぼ毎日のように行政から書類が届き、書類提出の締切日を睨みながら作業を進めてまいりました。行政の方々も同様で、連日残業の日々との話でした。保育新制度は介護制度に似た制度ですが、介護と違い、保護者の状況により保育認定を致します。保育園児の保護者はまだ若く、転職、転居、離婚、再婚、出産など、流動性が高く、その都度何種か書類を行政に提出、行政から認定を受けなければなりません。これもなかなか難議な作業です。

戦後最大の保育制度の変更で、多少の混乱は覚悟をしていましたが、行政の認定間違いや保育料の間違いなどもあり対応に苦慮致しました。新制度はかなり精緻に制度設計がされてい、「作品」とみるとなかなか良く出来ていますが、運用、対象は人ですので、今後、実情に合った制度になる様願っています。

さて、新制度が始まって、子ども達の様子はどうかと申しますと、3月と4月と一見変わったところは有りません。只、徐々に保育時間の変更希望が多くなり、特に乳児の保育時間が長くなる傾向が有ります。又、土曜日の出席園児も増加傾向にありませぬ。保護者が行政から受ける保育給付認定は11時間の標準認定と8時間以下の短時間認定の2種類が有ります。法人の各保育園の認定状況は標準時間認定が8割位です。粗々な説明になりますが、標準保育時間認定の場合、8時間30分の保育時間でカバーできる場合でも11時間の保育を受ける権利を有していることとなります。又、給付認定は月曜から土曜日までです。子ども達の保育時間が長くなるのも、制度上による事が多いと思われませぬ。

保育園の役割は保護者の就労等の保障と子ども達の健全な発達保障の両輪です。この両輪のバランスが気掛かりです。働き方について、社会全体でもっと議論が活発になればと思っています。

先日、11月26日に決定された『1億総活躍』の緊急対策では、『希望出生率1.8』に関し平成29年度末までに新たに『50万人』の保育サービスの受け皿を確保するとされました。

現在、保育園在籍児は全国で240万人位ですので、50万人はとてつもなく大きな数字です。この政府の決定を受けて、今後の具体的な施策に注目していきたいと思っています。

報告事項が一つあります。広報誌「しあわせ第10号」に年長児の愛宕山登頂挑戦予定のお話を致しましたが、10月30日に参加園児全員、登頂成功を致しました。お昼ごはんの後、山頂の愛宕神社前のひろばで鬼ごっこをして走り回っていて、子ども達の秘めた力に改めて驚かされました。